令和６年４月 17 日

研修だより５号

笠小ルーブリックについて①

小笠原康晃

年度初めの研究推進委員会や校内研修で話題になった「笠小ルーブリック」について、共通理解をしたいと思います。
まずは「ルーブリック」という言葉についてです。

「ルーブリック」とは、「評価規準」という意味です。
私たちが子どもたちに身に付けさせたい「資質・能力」は、学校で行われる授業や特別活動だけとらわれず、学校を卒業し、社会に出たとしても活用することができるものです。
「資質・能力」とは、「情報活用能力」や「課題解決能力」といった特定の教科や単元にとらわれないものです。
だからこそ、１時間の授業よりも長い期間で育てていかなくてはいけません。
「資質・能力」を育てるためには、１単元や１学期、１年間という長い期間が必要なのです。

当然、評価の方法も変わります。
ペーパーテストを含め、活動の様子や成果物なども大切になってきます。
「情報活用能力」や「課題解決能力」といった「資質・能力」は、様々な観点から評価をしていかないと、正確に見取ることができないからです。
そこで、「ルーブリック」が必要になります。
ルーブリックは、子どもたちの到達具合を文章で評価するための規準です。
子どもたちの頑張りを総合的に評価します。
「資質・能力」が育ち具合を判断するのが「ルーブリック」です。
そして、本来ルーブリックは、授業の開始前に子どもたちに提示されます。
「今回の学習を通して、こういう状態になっていたら、A 評価である」ということが、学級全体で共有されます。
共有されることで客観的な評価にもなりますし、子どもたちが目指す目標にもなります。